

03/08/051

# 大子町の おんから

中村祐司

人にはそれぞれ故郷がある。だが、それが明確ではないという人もいるのではないか。私の場合がまさにそうだった。

幼少時代は神奈川の平塚で過ごし、小学校低学年から卒業までは横浜に住み、大学院時代は東京で下宿生活。その後、埼玉の所沢に2年間、そして宇都宮に来て早くも11年目を迎える。北へと移住する生活を送ってきたことになる。

両親の実家が静岡の南伊豆町

## 地域の課題を探索

■ 1

にあるため、小学生のころは、そこで夏休みや冬休みをまるまる過ごすことが多かった。

どういうわけか、最近になって、子どものころに海や山で遊び回ったことや、祖父母の手による自家製の米や野菜、果物が食卓に並んでいたことを懐かしく思う気持ちが強くなった。

不惑を超えた今になって、ようやく「心の故郷」を見つけることができたのだろうか。

私にとつての北限の地である栃木県を、「故郷」と呼べる日もそう遠くないのかもしれない。このコラムでは地域の身近な題材を取り上げ、そこから見えてくる課題を紹介していきたいと思う。

(宇都宮大学国際学部教授)